	> 101 (THI														
IPE科目	1														
							授業科目名	7							
カリキュラ	ム2019						JAKTIE E	-1							
IPW演	習														
Interpro	fessional V	Vork : Sei	minar												
No.	時間割番号											曜日・時限			
1			300401									月曜3限			
2	2 200300402							-				月曜3限 ————————————————————————————————————			
3_IPE3200															
					配当年》	欠 および	必須 (⊙)	・選択 (○) の別						
No.	看護		理学	作業	_		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
		編入					専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻		
1	3 ©	30	30	30				-							
2	3◎	30	30	30			3◎] 3⊚	3⊚	3◎		3◎	3◎		
多学科に 場合は【	前半】、学	ームで、様 籍番号が" [*]	 ⁻		こなります	。前半は	•				•				
科目責任	任者	久保田 🗓	章仁		単位数・時	間数	1 単位	15 時間		授業形	態	演習			
科目担	当者	吉永亜子	、柴田亜希	、辻玲子、	小野仁美,	、高柳雅郎	前期 月曜3限 前期 月曜3限 前期 月曜3限 前期 月曜3限 前期 月曜3限 前期 月曜3限 月曜3限 月曜3限 月曜3限 7年3								
科目に関する実施		0	各々専門領	領域における	臨床現場 ⁻	での実践経	経験を有し ⁻	ている。							
授業の	既要														
														スを通じ、	
学習の	asu														
態度、ス	キルなどを	統合させ、	問題解決の		同時にチー	-ム形成の	深化を体験								
						関連す	るディプロマ	ポリシー							
対象	者の理解・倫	理観	客観的	 的・批判的思う	Š	多面	多面的・専門的 連携・統			・統合		国際	的·地域		
	0			0								0			
授業の	到達目標及7	が授業概要	<u> </u>									l			
0			· 受業の到達目	3標				授業概要	Ę			担当教員		講演者	
1	・利用者を	:尊重した :	チームで目指	a 当すべき目標	 を共有で	第1回(i	前半:4/8	3 後半:	5/10)ガ	iイダンス:	久保田 、吉永 、柴田				
	きる。					講堂 (事前に									
			田亜希 小里 (作業)」	6亿美 田村 - 原学一郎	佳士枝		・ 日標や技業概要については、オンティントで唯 認する								
		ネロギー 永亜子・「		LINN AD		1	ーム内での	D自己紹介、	アイスブし	ノイク					
	(社福)嶌	抹憲子・信	呆科寧子 (共通)高柳雅	朗		例の共有・	・課題と、次	次回まで調/	べてくるこ	느				
						の確認									
2~5	・利用者二	一ズを中心	 ひにするとキ	 もに、連携か	 ら協働、	小講義室にてグループワーク				久保田、吉永、柴田					
				スの違いを認	識したデ		•								
	ィスカッションを実施できる。										4 、				
・求められている各学科で養成する専門職性などの相										INJITI (
	互理解を深める。										ח				
 ・葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求															
められる能力を理解できる。															
	・エートの中辺に広じた夕祥かけつになってのため					その過程にて生じた葛藤(違和感や困難さなどでも									
	・チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり 方を理解した上で、4段階でのリフレクションの実施を														
	目指す。					相互理解	相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図								
						1マラレ	か田がわれ	F几位に での L I	1		1				

			IPWに必要な能力を修得する。		
			 授業内では教室でのディスカッションやワークの <i>。</i>	74	
			などを役割分担し、共同作業の方法を実践する。		
6	・チーム活動の体験を通じて、ク	テアプランのポイント	第6回(5/20 7/15)	久保田 、吉永 、柴田	
	や葛藤・合意形成について共有し	J、その多様性を理解	報告会とフィードバック	、辻 、小野 、高柳 、	
	する。 			上原 、嶌末 、保科 、 岡田 、田村	
7	・チーム活動の体験や報告会を!		 第7回(5/27 7/22)	久保田、吉永、柴田	
′	とにより、本科目の目標についる		フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレ [,]		
		2 23. 24.00	ション方法(4段階は必ず)を実施し、理解を深める		
			※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響	響 岡田 、田村	
			がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、	果	
	て / 江卦の仕除た深パマ ぎ	5750450 N WOOK O	題を求める。	6/00 ±3. #50	
8	・チーム活動の体験を通じて、等 自己における学習課題を明確にする		第8回(6/3 7/29) レポートへの質問	久保田 、吉永 、柴田 、辻 、小野 、高柳 、	
	I Com of Emale !	7 0 0	D / 1 (0) 30(1)	上原、嶌末、保科、	
				岡田 、田村	
授業計	画に関する特記事項				
※ガイダ	ンス(第1回) は講堂で行い、ガィ	′ダンス終了後各教室に	移動します。ガイダンス前にオンデマンドでのガイタ	ブンス内容や留意事項を確	認して参加す
			するためメールを確認しておくこと。Webclassは共		
降は各ク 留意する	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	る。出席登録はWebClas	sにて行う。なお、30分以上の遅刻は欠席(3回にて	成績評価の対象外となる)	となるので、
	<u> </u>				
教科書	 「IPWを学ぶ 利用者と地域とと	・七に展問する原体医療	短头连接!		
			田位廷汤」 下大仏然		
参考書	、教材等 、IPW論の参考図書です。				
	、IPW珊の参考図書です。 ・A・ウェスト著・下山晴彦監訳	(2014) 「チームワー	クの心理学!東京大学出版会		
			が機能するとはどういうことか」英治出版		
野中猛ほ	か著(2007)「ケア会議の技術」	」中央法規出版			
評価方	法				
グループ	活動の状況や毎回のリフレクショ	ン、個人のレポートを	総合的に評価します。		
授業外	こおける学習方法				
学習上	の助言や授業改善に関する教員から	のコメント			
地域 (現場)にて取り組む4年次のIPW	実習は、多分にIPW演習	習での体験に影響されると考えられます。 現在、いか	なる領域に就職しようとも	5、多領域での
	働が求められています。				
			起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チー が多く担当するため、各自が率先して4段階でのリフし		
	す。なの、4年次のIPW美音では 活動等のリフレクションでも活用			//ノションで美元 (さるよ	ノ、母川村日で
	らける講演者(ゲストスピーカー)の		-		
D	講演者氏名	110.100	講演の概要	備考	
	MARKE PER PARTY		NESTRONA PARTON	C. mn	
	<u> </u>				
是级司					印刷 閉じる
取べり	C初山: ZUZ4/U3/TZ TZ:T/				印刷閉じる

IPE科目	1														
							授業科目名	,							
カリキュラ	ム2019							-							
I PW演	_	Vork : Sem	ninar												
No.	時間割番号 開講時期 曜日・時限														
1		2003	00401				前期]				月曜3限			
2		2003	00402				前期]				月曜3限			
							ナンバリング	ř							
B_IPE32	00														
			TITI 234	P4_ A324	配当年》	欠 および		・選択(〇	T	/=		IA min		-bell- mids	
No.	看護	編入	理学	作業	Г		社福 専攻	編入	福子	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職	
1	30	30	3©	3◎			3◎	30	30	30	編入	9以	3◎		
2	3 0	30	30	30			30	30	30	30		30	30		
履修には	」 おける注意点	 ∴履修条件∜) 等												
場合は【	前半】、学	籍番号が"奇	う数"の場合	て演習に取締は【後半】(i 変更している	こなります	。前半は		,			, ,			が"偶数"の 実習等の理	
科目責	任者	久保田 章	[仁		単位数・時	間数	1 単位 :	15 時間		授業形	態	演習			
科目担	当者	吉永亜子、	柴田亜希	、辻玲子、	小野仁美、	. 高柳雅朗	月、久保田	章仁 、上原	原栄一郎 、	嶌末憲子 、	保科寧子	、岡田茂治	3 、田村	佳士枝	
科目に関する実務		0	各々専門領	領域における	臨床現場	での実践経	験を有して	ている。							
授業の	既要														
				、保健医療や 和感や困難で										2スを通じ、	
学習の		生成で主女	76·16/所(注	:10% (- MXE)	-/&C C O	P) (- II)	5/1/11X/AC	· II WICA	אפיז ויכיכטי		1C S G 9 7	י א בודוע	•		
本科目態度、ス	は、一連の キルなどを	統合させ、	問題解決の	ケア論、ヒュ プロセスとli 、4年次のIF	司時にチー	ム形成の流	深化を体験							る価値観や フションを活	
						関連する	るディプロマ	ポリシー							
対象	者の理解・倫	理観	客観的	り・批判的思え	号	多面的·専門的連携·			·統合	統合 国際的・地					
	0			0		0 0					0				
授業の	到達目標及7	び授業概要													
			業の到達目					授業概				旦当教員		講演者	
1	き る。				第1回 (前半: 4/8 後半: 6/1 0) ガイダンス: 講堂 (事前にオンデマンド内容の確認について周知するため、要メール確認)					、辻 、小野 、高柳 、					
	(看護) 辻玲子 柴田亜希 小野仁美 田村佳士枝 (理学) 久保田章仁 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・岡田茂治 (社福) 嶌末憲子・保科寧子 (共通) 高柳雅朗				・目標や授業概要については、オンデマンドで確認する ・チーム内での自己紹介、アイスブレイク ・事例の共有・課題と、次回まで調べてくること の確認					確					
2~5	さらに統合された支援やサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。 ・求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。 ・葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求				第2回 第3回 第4回 第5回 模擬課	第2回: 4/156/17第3回: 4/226/24第4回: 5/67/1第5回: 5/137/8					吉永 、	p.			
	められる能力を理解できる。 ・チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり 方を理解した上で、4段階でのリフレクションの実施を					その過程にて生じた葛藤(違和感や困難さなどでも 可)に対しては、共感的コミュニケーションや利用者									

		IPWに必要な能力を修得する。			
		 授業内では教室でのディスカッションやワークのA	*		
		となるため、毎回、次回までに各自が調べておく事項			
		などを役割分担し、共同作業の方法を実践する。			
6	・チーム活動の体験を通じて、ケアプランのポイント	第6回(5/20 7/15)	久保田 、吉永 、柴田		
	や葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解	報告会とフィードバック	、辻、小野、高柳、		
	する。		上原 、 鳥末 、 保科 、 岡田 、 田村		
7	 ・チーム活動の体験や報告会をリフレクションするこ	第7回(5/27 7/22)	久保田、吉永、柴田		
_ ′	とにより、本科目の目標について理解を深める	フィードバックを受けてのまとめ・複数のリフレク			
		ション方法(4段階は必ず)を実施し、理解を深める			
		※欠席すると、グループ全員のリフレクションに影響			
		がでるため、欠席者にはグループへの対応と共に、誤	R		
	- 1774 - 1175 + 170 - 147° - 145 \ 110 \ 1	題を求める。	6 /D		
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の 自己における学習課題を明確にする。	第8回(6/3 7/29) レポートへの質問	久保田 、吉永 、柴田 、辻 、小野 、高柳 、		
	日日にのかる子自体歴での唯による。	レバー「* (の負向	上原、嶌末、保科、		
			岡田、田村		
授業計	画に関する特記事項		·		
※ガイダ	ンス(第1回) は講堂で行い、ガイダンス終了後各教室に		ンス内容や留意事項を確認	認して参加す	
る。オン	デマンドのガイダンス内容については、メールにて周知	🛮 するためメールを確認しておくこと。Webclassは共演	通全体(①②)に設定する	。※第2回以	
	ルプ毎に教室に分かれて参加する。出席登録はWebCla	issにて行う。なお、30分以上の遅刻は欠席(3回にて店	找績評価の対象外となる)	となるので、	
留意する					
教科書					
教科書:	「IPWを学ぶ 利用者と地域とともに展開する保健医療	· ···································			
参考書					
	:、IPW論の参考図書です。				
	・・A・ウェスト著・下山晴彦監訳(2014)「チームワ- ・C・エドモンドソン著・野津智子訳(2014)「チー <i>』</i>				
	か著(2007)「ケア会議の技術」中央法規出版	スが一般化するとはと グ・・フととか J 天石山原			
評価方	法				
グループ	ー 活動の状況や毎回のリフレクション、個人のレポートを				
授業外	における学習方法				
学習上	の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
	現場)にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演		 3る領域に就職しようと#		
	働が求められています。				
全学科	の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに	こ起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チーク	ムでのやりがいを実感でき	きることを期待	
	す。なお、4年次のIPW実習では、IPW演習以外の教員		クションを実施できるよ	う、専門科目や	
	活動等のリフレクションでも活用することを推奨します	.			
授業に	おける講演者(ゲストスピーカー)の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考		
最終百	更新日: 2024/03/12 12:17			印刷 閉じる	